GENERAL INCORPORATED FOUNDATION BACH GROVE

バッハの森通信

第130号
2016年
1月20日発行

一般財団法人バッハの森
〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9　http://www.bach.or.jp
☎ 029-847-8696／Fax 029-847-8699　e-mail：info@bach.or.jp
郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

バッハの森の文化

楽しい贈り物は「音楽の贈り物」

「新年おめでとうございます」と御挨拶を書き出しながら、まだ私は、バッハの森で年末に経験した楽しい思いの余韻に浸っています。それはユーフォーリア（高揚した非現実的幸福感）とすら呼びたい、幸福な空気に包まれた楽しい思い出です。

2015年のバッハの森の年末は、11月に「アドヴェント・コンサート」、12月13日に「クリスマス・コンサート」、19日に「家族で楽しむクリスマスの音楽会」、その後で「祝会」と続き、26日の「大掃除」で終わりました。それ以来、これら一連の催しでいつも感じた楽しさはどこから来たのか、と年末年始を通して自問自答してきました。その結果、それは「バッハの森の文化」だ、という答えに到達したので、それがどういうことなのか報告いたしましょう。

＊　＊　＊

「アドヴェント・コンサート」の最後に、バッハのカンタータ（BWV 36）からソプラノのアリアがヴァイオリンとオルガンの美しい伴奏で演奏されました。「鈍い弱い声でも／み神のみいつは誉め称えられます。／ただ霊が共に鳴り響くと／み神に向かう叫びとなり／それをみ神が天で聴いてくださいますから」。「シャ・ァ・ァ・ァ・レット」（鳴り響く）と途切れ途切れに歌うソプラノを聴いているうちに、こみ上げるものを感じて目頭を押さえました。

「クリスマス・コンサート」では、クリスマス・オラトリオから「さぁベツレヘムへ行こう」と羊飼いたちが語り合う合唱を初めて歌いました。演奏は1分足らずなのに練習に時間がかかった難曲でした。それでも、美事なオルガン伴奏と共にクワイアはちゃんと歌い切りました。対照的に、シュッツのドイツ語マニフィカトは、歌いこんだ安定感があり、そのメッセージを十分に伝えていました。

とんでもない失態を演じたのは私です。メディタツィオの朗読を始めたところ、2枚目の原稿がないではありませんか。「お話しに切り替えます」と断って乗り切りましたが、一瞬、頭が真っ白になりました。直接の原因は、開演5分前まで外で駐車整理を手伝っていたため、すべての原稿を確かめる暇がないまま始めたことです。後で、ちゃんと分かりました、と皆さん慰めてくださいましたが、勿論、あってはならないことです。

「家族で楽しむクリスマスの音楽会」は、オルガン、朗読、声楽アンサンブル、器楽アンサンブル、ハンドベル、キャロル斉唱など、10人で協力して作った多彩なプログラムでした。ただ皆さん多忙で、最後まで全員そろった総練習ができませんでした。それでも、降誕物語の朗読を軸に、場面場面でクリスマスの音楽を歌ったり、演奏したりする形式にすっかり慣れている人たちでしたから、とても総練習なしとは思えない出来で、来場された皆さんは大変楽しんでくださいました。しかし、結果オーライではまずいという反省から、来年はもっと前から時間をとって練習するそうです。

＊　＊　＊

楽しいクリスマスのクライマックスは「祝会」でした。例年通り、持ち寄りのご馳走で満腹になった後で、キャロルを歌い、皆で音楽会を開きましたが、今年初めて、会員のお子さんたちが音楽の贈り物をしてくださいました。まず小4のマナちゃん、小1のタッちゃん、それに2歳のハルちゃんとお母さんの4人で歌った「きよしこの夜」の斉唱と二重唱は、その美しい歌声に、皆、聴き惚れました。それから小1のハナちゃんが、お母さんのチェンバロ伴奏と一緒にバッハのブーレをヴァイオリンで演奏しましたが、その迫力ある演奏に、皆、圧倒されました。

気がついたら、そこにはサンタクロースがどこにもいませんでした。勿論、この子たちの家にもサンタクロースは来たはずです。ただバッハの森では、贈り物は「音楽の贈り物」だけでした。これがバッハの森の文化なのです。この文化を楽しみ、その幸福感を味わうために、皆さん、集まっていたのです。このようなバッハの森の文化と幸福感を探し求めている方はどなたでも、どうぞいつでもご参加ください。歓迎いたします。（石田友雄）

地 に は 平 和

御意志（ミココロ）に適う願い

＊本稿は去る 12 月 13 日にバッハの森のクリスマスコンサートで朗読したメディタツィオです。

「地には平和」、これは、今、世界中の人々が心から願っている願いです。激しい内戦が続くシリアは勿論、ヨーロッパの大都市でも、中東、アフリカ、アメリカなどの各地でも、文字通り世界中で、一般市民が、いつ襲われるか分からないテロに怯えて暮らしています。まるでパンデミックのように、世界中に拡散した恐怖の発信源は、「イスラム国」と名乗るイスラム原理主義過激派の集団とみなされ、欧米諸国が中心となり、躍起になってその壊滅を目指す軍事行動を起こしていますが、そのような方法で「イスラム国」を根絶できるかどうか、疑問視されています。「イスラム国」は、国家でも、組織でもない、宗教的信念に基づく運動だからです。

世界中に飛び火したテロの恐怖を沈静化させるためには、「イスラム国」が何者なのか知らなくてはなりません。そのためには、十字軍に対するジハード（聖戦）だ、という彼らのスローガンの背景にある、複雑な歴史的・社会的状況を理解する必要があるでしょう。しかし、今は「イスラム国」発生の直接的原因になったシリアの内戦が、大旱魃から始まったという分析に注目します。何年も続く旱魃のため、農業生産が全くできなくなった農地を放棄した農民が都会に集まり、無能な政権の打倒活動を始めたところに、国外から諸々の勢力が介入してきたため収拾がつかなくなったというのです。

大洪水の原因

今、地球上の各地で異常気象のために大旱魃、大洪水、海面上昇、台風などが頻発し、その大型化が問題になっています。これは産業革命以来 200 年間に、人間が排出した二酸化炭素による温室効果ガスが引き起こした温暖化が原因だと説明され、先日までパリで、気候変動を克服するための国際会議 COP 21 が開かれていました。しかし、温暖化以前に、太古の昔から、異常気象に人間は悩まされてきました。シリアの隣国イラクにかつてあったバビロニアで、今から約 4000 年前に著作された叙事詩『ギルガメシュ』の中に、人類が滅亡の危機に瀕した大洪水の物語があり、それを借用した「ノアの洪水物語」が旧約聖書の創世記に収録されています。

洪水そのものの描写はバビロニアの叙事詩に類似していますが、洪水が起こった原因を、創世記は独自の視点から次のように記します。「主は、地上に人の悪が増大し、常に悪いことばかり考えているのを見て、地上に人を造ったことを後悔して言った。『私は人を創造したが、これを地上から拭い去ろう。彼らを創ったことを後悔する』」（創世記6章5～7節）。

要するに、到底許せないほど堕落した人類を地上から一掃するために、神が大洪水を起こしたのだ、と洪水が起きた理由を説明しているのです。しかも、神は人類を創ったことを「後悔」した、とまで言います。人類は失敗作だった、と神が自ら認めているわけです。

実は私自身、最近まで、人間の堕落と洪水に因果関係を認める古代人の説明に、現代人は到底納得できないと考えていました。ところが、人間の活動によって生じた地球の温暖化が、各地で頻発する大洪水、大旱魃の原因であることが明らかになり、それがシリアの内戦、ひいては「イスラム国」を生み出す引き金になったことを知ると、人間が自分の利益のみを追求する生きものとして進化してきたことが、今、世界各地で起きている災害の原因になったことを否定できなくなりました。古代人が神の怒りを恐れた「恐れ」を忘れた現代人は、人類がこれまで通り好き勝手に生き続けることができると、安易に考えているのではないでしょうか。そうでなければ、地球環境の危機的状況を無視して、これほど平気で争い続け、殺し合い続けることはできないはずです。

神の御意志（ミココロ）

それにしても、世界中の人々が心から願っているのに、なぜ「地には平和」が来ないのでしょうか。それは、平和の前提と条件を忘れているからです。言うまでもなく「地には平和」という願いは、イェス・キリストが誕生した夜、ベツレヘムの郊外で羊の群れの番をしていた羊飼いたちに現れた天使の大群が、「いと高きところにいます神に栄光あれ」と歌った讃美の続きです。「いと高きところ」とは「天」のこと、「栄光あれ」とは天の王である神の支配の称賛です。従って、この讃美の歌によれば、天における神の支配を称賛することが、地上に平和が来る前提です。それに、「御意志（ミココロ）に適う人々に」という条件もつきます。これは、神の王国を地上に実現することを目指して活動したナザレのイェスの誕生に相応しい歌なのです。イェスは「主の祈り」

の中で、天の父に向かって、「あなたの御意志(ﾐｺｺﾛ)が実現しますように、天におけるように、地上にも」と祈るよう教えました（マタイによる福音書 6 章 10 節)。では、神の御意志(ﾐｺｺﾛ)とは何でしょうか。

状況に応じていろいろな答えがありますが、ここでは、「ノアの洪水物語」の結末を参考に考えてみます。大洪水が終ると、家族と共に独り生き残ったノアから捧げ物を受けた神が、自分自身に言い聞かせます。「もう二度と人間のゆえに大地を呪わない。人間という生きものは、若いときから悪いことばかり計画する連中なのだから」(創世記 8 章 21 節)。洪水前に人間を創ったことを後悔した神は、洪水後に人間は本性からして悪い生きものだから、人間が悪いから洪水を起こすのは止める、と言ったのです。

他方、神はノアと彼の息子たちを祝福して言います。「産めよ、増えよ、地に満ちよ。・・・これまでは植物だけをお前たちの食料に与えてきたが、これからは動物の肉も食べていい。ただし、命である血を含んだまま肉を食べてはならない。・・・それに、人の血を流した者は、自分の血で償わなければならない。人は神の像(ｶﾀﾁ)に創られているのだから」（9 章 1～6 節)。要するに、食料にする動物を殺すことは許すが、命そのものである血は食べてはならない。まして、神の像(ｶﾀﾁ)に創られている人の命は特別な命だから、人を殺した者は自分の命でしか償うことができない、と定めたのです。

血を命そのものと見なす古代人の理解と、すべての命はかけがえのない貴重なものだ、という考えに基づいて、血の食用禁止令が定められたと考えられますが、現代この定めを守る人々は限られています。しかし、人の命は特別に大切なものだという考えには、宗教や文化の差に関係なく、世界中の人々が賛成していると思います。そして、まさにこの考えこそが、神の御意志(ﾐｺｺﾛ)なのです。ですから、「地には平和」の前提には、全世界の人々が賛成していることになります。それなのに、なぜ「地には平和」が来ないのでしょうか。それは、前提に賛成しても、それを守って御意志(ﾐｺｺﾛ)に適う人になる条件を満たさないからです。

歴史を学び、人間の社会を観察すると、人の命がかけがいのない特別に大切なものだという定めは、建前にすぎないことが分かります。すでに述べたとおり、人間が、自分の利益追求を最優先する生きものとして進化してきた事実は、余りにも明白です。命、特に他人の命の犠牲を顧みないで経済成長を追求した結果、公害問題が世界各地で起こっています。

もっと悪いことに、しばしば人間は神になり代わります。社会的弱者の搾取も、他人種、他宗教の信徒の迫害も、人は常に自分は正しい、という主張の下に行います。すべての戦争もテロ行為も、自分たちが神、或いは神の使者になったつもりの人々が、愛国、自衛、神の命令などという大義名分の下に敵対する人々を殺戮し、その行為は仲間から称賛されるのです。

悪が人間の本性だ、とノアの洪水後に神が独り言したのを思い出します。歴史的、客観的に観察すれば、これが地上のルールなのです。ですから、神の御意志(ﾐｺｺﾛ)、すなわち、天という異次元のルールを地上に持ち込む以外、平和の条件は整わないのです。イエスが、「御意志(ﾐｺｺﾛ)が天におけるごとく、地上でも実現しますように」と祈ることを教えたとおりです。

異次元のルールを実現する道

ナザレのイエスの類い希なる教えと生き方に深い感動を覚えた弟子たちが、彼の死後、彼をメシア、すなわち、キリストとして礼拝するようになりました。そして、彼は「天」という異次元のルールを地上に持ってきた方だ、という彼らの信仰から、クリスマスの降誕物語は生まれました。そのクライマックスが、天使の大群の讃美の歌です。「いと高きところにいます神には栄光、地には平和、御意志に適う人々にあれ」。

しかし同時に、自分たちが「御意志(ﾐｺｺﾛ)に適う人々」になることが難しいことも、彼らは自覚していました。そこで、自分を犠牲にして天のルールを実行したナザレのイエスを、聖書の世界の文化に従って、「神に捧げられた犠牲の小羊」と呼び、犠牲となったイエスを通して天のルールが与えられ、それによって、先ず神の怒りを鎮め、次に人と人の間の争いを終わらせることを願ったのです。この願いが、ミサ通常文の「アニュス・デイ（神の小羊)」になります。「世の罪を負う神の小羊よ、我らを憐れみたまえ、そして我らに平和を与えたまえ」。

残念ながら、いまだに地上に、人の命は何ものにも代え難い大切なものだ、という天のルールは実現していません。しかし、今、人類が自滅の方向に向かっていることは確実です。クリスマスの夜に天使の群れが歌った讃美に声を合わせてみませんか。そして、神の小羊に、「御意志(ﾐｺｺﾛ)に適う」ために憐れみを乞い、平和を願ってみませんか。地上に異次元の天のルールが実現する道が見えてくるかもしれません。(石田友雄)

「バッハの森」と私

― 地 に は 平 和 を ―

毎年、はるばる山形の地から車を６時間走らせてバッハの森のクリスマスコンサートに参加しています。石田先生の綿密な構成によって組まれたプログラムで、聖書朗読を聞き、オルガンを聴き、合唱を聴き、コラールを参加者全員で斉唱し、そして先生のメディタツィオを聞く、私たち夫婦にとっては、これに参加しないと年が越せない、そんな感じなのです。

石田先生との出会いはもう 35 年以上も前のことです。つくばに茗渓学園が創立されるのに参加するために山形から移り住んで間もなくであったでしょうか、地域のコミュニティ誌にオルガニストの石田一子先生が紹介されていました。それを読んだ妻和子が、自分が学生時代にお世話になった方の娘さんに違いない、と連絡を取らせていただいたところその通りで、それ以来のお交わりです。

石田先生の壮大な構想などつゆ知らず、聖書の話が聞ける、大好きなコーラスができる、オルガンについても学べる、ということで、まず先生の官舎の一室で始まった勉強会に加えていただきました。その会が秋学期からは「講義とバッハの曲を歌う」という筑波大の公開講座になり、毎週のように筑波大に通いました。あの公開講座には 5、60 人あるいはもっと参加者がいたような記憶があります。これが今につながるバッハの森の活動なのですから、私たち夫婦はその産声をあげたときからご一緒させていただいた幸運なメンバーなのです。

ルターのコラールとバッハの教会音楽の関係、聖書との関連、実際に音を出してみること、それらが有機的につながった学びをさせていただきました。

奏楽堂の起工式の時には、骨組みが立ちあがり、屋根板数枚がのっただけでしたが、それだけで歌声が反響して響き渡ったのです。まるで完成した堂で歌われているように響き、聴こえて吃驚しました。

ハンドベルの点鐘に始まり点鐘に終わるクリスマスコンサート、目をつぶって聴いていると、ヨーロッパの教会かとも錯覚しかねない雰囲気が好きです。また主題にそったコラールを参加者全員で斉唱するのもこのコンサートの特色かと思います。今年もまたそれを楽しむことが出来ました。

さて、今年のメディタツィオには深く共感を覚えました。この１年間、日本人も IS に殺されるという痛ましいことが現実となり、テロ活動はどこで起こっても不思議ではない、という世界同時の不安状況です。私たちとて例外ではあり得ないのです!!

こんな不安や、やり場のない怒りを多くの人が抱えている中での先生の今年のメディタツィオは、これに真っ向から向かった内容でした。「地には平和、これは、今、世界中の人々が心から願っている願いです。」という言葉で始まりました。

「激しい内戦が続くシリアは勿論、ヨーロッパの大都市でも、中東、アフリカ、アメリカなど各地でも、文字通り世界中で一般市民が、いつ襲われるか分からないテロに怯えて暮らしています。」と続きます。どうぞ本誌掲載の本文をお読みください。ここにはイスラエルで 10 年以上も研鑽を積まれ、旧約聖書に精通された先生ならではの視点から、今を解き明かす明快な論評があります。

私たちの多くは、「イスラム国」は何者か・・・それを知らなくてはならないのに、「イスラム国」という国土を持った国が存在するかに誤解しています。これが国家でも組織でもなく、宗教的信念に基づく運動だ、ということだけでも知るならば、現況への不安感も少し和らぐかも知れないことをまず教えられます。今年の様々な自然災害も、ノアの洪水物語から解き明かされます。人間がいかに罪深く、しかしいかに神様から愛されたかにも触れられていますが、ここではそれらは省略し、先生が後半で仰ったことが自分にとって一番ぐさっときましたので、それについて申し上げます。

先生は「しばしば人間は神になり代わります」と仰り、聖書の時代も今も等しく、社会的弱者の搾取も他人種他宗教の信徒の迫害も、人は常に自分が正しいと主張して、戦争もテロ行為も自分が神、あるいは神の使者になったつもりで、愛国、自衛、神の命令などという大義名分の下に敵対する人々を殺戮します。そしてその行為が仲間から称賛されているのです。昔も今も続く同じ過ちです。

「己が腹を神とする」という言葉が聖書にあります。まさにこの言葉を地でいくことだと思います。己を神とする、つまり自分を正しいとする誤謬に陥る人々が、テロを、戦争を起こします。IS もアメリカの歴代大統領もみなそうです。また自分自身もそのひとり、といつも反省しているのです。そのことを再び気づかされた今年のクリスマスコンサートでした。

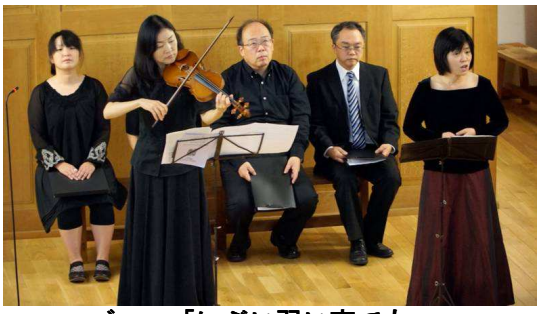
（山形県小国町在住　今野利介）

「馬小屋の聖家族」（クリッペ／クレッシュ）
創立時に会員が創作

「高きみ空より」
ハンドベル・クワイア

コレルリ「パストラーレ」
バロック・アンサンブル

「祝会」
持ち寄りのご馳走



バッハ「にぶい弱い声でも」
三橋友紀子さん（Vn）　比留間恵さん（Sp）
宮本とも子さん（Org）　声楽アンサンブル

「きよしこの夜」
お母さん
たっちゃん（小１）　マナちゃん（小４）
ハルちゃん（2 歳）

バッハ「ブーレ」
お母さん　ハナちゃん（小１）

日　誌（2015. 10. 9～12. 31）

10.12　**メサイアを 2 倍楽しむワークショップ**
参加者 15 名。
10.15,22,29　**運営委員会**　参加者各 4 名。
10.20　**訪問**　鈴木欽一氏（公益財団法人茨城県教育財団理事長）、佐藤義一氏、川崎豊美氏、園部隆氏（同財団職員）。
10.22, 23　**取材**　牧野佐千子氏（常陽新聞）。
11.5,12,19,26　**運営委員会**　参加者各 4 名。
11.7　**リハーサル**（アドヴェント・コンサート）3 名。
11.14　**リハーサル**（アドヴェント・コンサート）2 名。
オルガン調律　河内克彦氏。
11.15　**アドヴェント・コンサート「クリスマスを待つ」**
参加者 38 名。
11.27　**チェンバロ調律**　ギタルラ社。
12.3,17,24　**運営委員会**　参加者各 4 名。
12.10　**クリスマス飾り付け**　参加者 6 名。
12.12　**ゲネプロ**（家族で楽しむクリスマスの音楽会）
参加者 12 名。
12.13　**オルガン調律**　河内克彦氏。
クリスマス・コンサート　参加者 50 名。
12.19　**家族で楽しむクリスマスの音楽会**　参加者 39 名。
クリスマス祝会　参加者 34 名。
12.26　**大掃除**　参加者 12 名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ
コラール・カンタータ研究
コラールとカンタータ（JSB）

10.10　第 392 回、三位一体後第 14 主日のカンタータ「イェスよ、あなたは私の魂を」(BWV 78)；コラール「主はわが魂」。オルガン：J. S. バッハ「イェスよ、あなたは私の魂を」(BWV 353)、鈴木由帆。参加者 14 名。
10.17　三位一体後第 18 主日のカンタータ「神が私の心を占有なさるように」(BWV 169)；コラール「我ら願いまつる、聖き御霊の主よ」。オルガン：J. S. バッハ「あなた、甘美な愛よ、私たちにあなたの慈しみを贈り」(BWV 169／7)、安西文子。参加者 12 名。
10.24　第 393 回、オルガン：D. ブクステフーデ「今、私たちは聖霊に願い求めます」(BuxWV 208)、安西文子。参加者 11 名。
10.31　三位一体後第 21 主日のカンタータ「私は信じます、愛する主よ、私の不信仰を助けてください(BWV109)；コラール「アダム罪に堕ち」。オルガン：J. S. バッハ「私は願います，おぉ主よ、心の底から」(BWV 18／5)、笠間きよ子。参加者 12 名。
11.7　第 394 回、オルガン：J. S. バッハ「アダムの堕落により、全く腐敗した」(BWV 637)、笠間きよ子。参加者 17 名。
11.14　三位一体後第 25 主日のカンタータ「あなた、平和の君、主イェス・キリストよ」(BWV 116)；コラール「平和の君なるイェス・キリスト」。オルガン：J. S. バッハ「私たちの思いと心も照らしてください」(BWV 116／6)、當眞容子。参加者 10 名。
11.21　第 395 回、オルガン：J. B. バッハ「あなた、平和の君、主イェス・キリストよ」、當眞容子。参加者 15 名。
11.28　アドヴェント第 1 主日のカンタータ「お前たち、喜んで高く舞い上がれ」(BWV 36)；コラール「いざ来たりませ」。オルガン：J. S. バッハ「父なる神に讃美が捧げられるように」(BWV 36／8)、金谷尚美。参加者 9 名。
12.5　第 396 回、オルガン：J. S. バッハ「さあ来てください、異邦人の救い主よ」(BWV 659)、金谷尚美。参加者 15 名。

学習コース

バッハの森・クワイア（混声合唱） 10.10／18 名、10.17／16 名、10.24／15 名、10.31／15 名、11.7／18 名、11.14／19 名、11.21／15 名、11.28／14 名、12.5／18 名、12.12／19 名（ゲネプロ）。
バッハの森・バロック・アンサンブル　10.10／4 名、10.17／4 名、10.31／4 名、11.7／3 名、11.21／5 名、12.5／4 名、
バッハの森・ハンドベル・クワイア　10.10／6 名、11.7／4 名、11.21／5 名、12.5／5 名（ゲネプロ）。
通奏低音研究会　10.7／5 名。
オルガン音楽研究会　10.16／7 名、10.30／7 名、11.13／7 名、11.27／8 名。
コラール研究会　10.16／6 名、10.30／7 名、11.13／6 名、11.27／8 名。
クラヴィコード・オルガン教室　10.16／2 名、11.13／2 名、11.27／3 名。
オルガン・クラブ　10.9／3 名、10.23／3 名、10.6／ 3 名、11.20／2 名、
チェンバロ教室　10.16／2 名、11.7／2 名
読書会：聖書　10.10／8 名、10.17／8 名、10.24／ 6 名、10.31／6 名、11.7／10 名、11.14／7 名、11.21／8 名、11.28／5 名、12.5／10 名。
1 日体験コース　参加者 2 名。
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習
10. 9／2 名、 10.10／2 名、10.12／1 名、10.13 ／1 名、10.14／1 名、10.15／3 名、10.16 ／2 名、10.17／3 名、10.20／2 名、10.21 ／2 名、10.22／2 名、10.23／3 名、10.24 ／1 名、10.27 ／3 名、10.28／3 名、10.29／3 名、10.30／1 名、10.31／1 名、11.4／2 名、11.5／4 名、11.6／4 名、11.7／3 名、11.10 ／2 名、11.11／1 名、11.12／3 名、11.13 ／1 名、11.14／2 名、11.17／1 名、11.18／1 名、11.19／2 名、11.20／2 名、11.21／2 名、11.24／1 名、11.25 ／1 名、11.26／3 名、11.27／1 名、11.28／1 名、12.1 ／2 名、12.2 ／1 名、12.3／1 名、12.4 ／2 名、12.5／2 名、12.8／3 名、12.9 ／1 名、12.10／1 名、12.11／2 名、12.12／2 名、12.15／2 名、12.16／1 名、12.17／12.18／3 名、12.19／1 名、12.21／2 名、12.22／2 名、12.25 ／1 名、12.26／1 名。